

イノシシを知って被害対策を考える

被害をなくすために、まずやるべきことは何？

島根県鳥獣専門指導員・麻布大学共同研究員 堂山宗一郎

集落の皆で勉強する！

集落の一部の人が、たくさん勉強して対策を行ってもなかなか被害は減りません。集落皆で勉強して、共通の知識や意識を持つことはとても重要です。特に、被害が軽減しているところでは、女性や子どもたちも積極的に対策に取り組んでいます。

餌付け要因をなくす！

イノシシなどの野生動物が田畑に出てくるようになった1番の理由は、そこに美味しいものがたくさんあり、良い餌場だと認識するようになったからです。そして、その大きな原因となっているのが、野生動物への「無意識の餌付け」です。次のポイントに注意して「無意識の餌付け」が農地や集落にないか、見回して下さい。

○ 収穫残さ

大きくなりすぎたり、熟しすぎたキュウリなどの野菜、少し腐って食べられなくなったり野菜を畑の隅に捨てていませんか？人間が食べられない作物でも動物にとっては美味しいご馳走です。これを食べて味を覚えた動物は、最終的には畑に侵入して作物を食べようになります。作物の味と畑の場所を覚えさせないためにも、収穫残渣はポイ捨てせず、生ゴミとして回収してもらったり、土の中に埋めるだけでも動物が近寄りづらくなります。



○ 放任果樹

誰も収穫しない果樹が家や畑の周りにありませんか？甘い果実を嫌いな動物はいません。地面に落ちた果実はイノシシの、木になったままの果実はサルの餌になってしまいます。さらに、これを食べた動物は果樹だけでなく、その集落全体を餌場として認識するようになります。動物を集落へ呼び込まないためにも、人間が食べなくても果実は全部収穫するか、放棄果樹は思い切って伐採しましょう。



○ 残飯や生ゴミ

残飯や生ゴミを家のそばに捨てていませんか？生ゴミも動物にとってはご馳走です。特に、

イノシシがこれに餌付いてしまうと民家周辺をうろつくようになり、農作物だけでなく、人身被害も引き起こしてしまうことになります。残飯や生ゴミを野外に捨てるのは止めましょう。

隠れ場所をなくす！

被害現場の近くには必ずといっていいほど、イノシシの隠れることのできる場所があります。このような場所の多くが耕作放棄地や竹ヤブであり、この中に身を隠したイノシシは、安心して人間の動きを観察できるため、どんどん人慣れが進むこととなります。このような場所が防護柵に隣接している場合、柵の弱点をじっくり探る時間をイノシシに与えることにもなり、柵を壊される可能性が高くなります。

耕作放棄地はクズが繁茂し、竹ヤブにはタケノコが沢山生えるため、イノシシの大好きなエサを提供する場所にもなります。

イノシシにとって最高の生活空間であり、被害を助長する耕作放棄地や竹ヤブを集落から減らしていくことも、被害対策として重要なことです。

防護柵は効果的に設置する！

防護柵の設置は有効な対策ですが、イノシシの行動を理解して正しく設置しなければ、その効果は小さくなってしまいます。

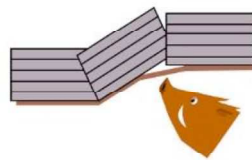


角には隙間ができやすいので要注意

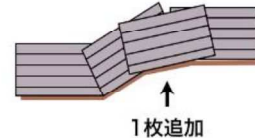
○ 潜り込み対策を重視

イノシシは柵の下側（地面と柵の間）から潜り込んだり、柵の連結部分等のできる数センチの隙間をこじ開けて侵入することがほとんどです。柵を跳び越えて侵入することはあまりありません。イノシシ潜り込まれないように柵の下側や連結部分に隙間を作らないように設置すること。また、地面と柵を固定するために杭等を打ち込んだり、柵の下側に補強材を取り付けることも有効な方法です。

柵の隙間を狙うのはイノシシだけではなくありません。サル、シカ、タヌキ等の他の野生動物も跳んだり登ったりするより、まずはこのような場所（隙間）を狙って侵入します。どの野生動物の対策でも隙間対策はとても重要です。



× 隙間がある



○ 隙間には資材を追加して対応

○ 電気柵の効果的な設置方法

- ・ 電線の高さ

電気柵の電線の高さは、確実にイノシシの鼻先を電線へ接触させるために、2段張りの場合、地面から 20cm・40cm の高さに必ずしてください。イノシシが跳び越えることを気にして電線を

少し高く（例えば 30cm・60cm）張ってしまうと、電線と地面、電線と電線の間が広く開くことになり、イノシシは鼻先を電線に接触させずに電気柵を通り抜けてしまいます。

・ 碍子（がいし）の向き

支柱に取り付けて電線を掛ける碍子の向きは、イノシシ側（＝作物の逆側）に向けてください。碍子がイノシシ側にある場合、イノシシがそれに触れると同時に掛けてある電線に触れる可能性が高くなり、感電しやすくなります。碍子が逆の場合、電線に触れる可能性が低くなり、支柱を押し倒して侵入してしまいます。



・ 設置場所

電気柵はアスファルトやコンクリート舗装された場所から離して、土の地面に設置してください。イノシシが電線に触れ、電気が身体を通り足先から地面に抜けていくことで電気ショックが起こる、というのが電気柵の仕組みです。イノシシの足先が舗装された場所にあると、電気が地面に抜けづらく、小さなショックしか発生しないために侵入されることがあります。イノシシの足先を確実に土の上に持つてくるためには、柵の外側 50cm が舗装のない土の地面の場所に設置すべきです。



この他にも基本的なことですが、漏電防止のために下草管理を行う必要があります。

忌避材に感わされないように！

手間が掛からない対策としてニオイや音、光を使った忌避材や装置が使用されることがありますが、これらに被害を防止する効果はありません！イノシシが来なくなったように感じることもありますが、これは忌避材を嫌がったからではなく、イノシシが環境の変化に対して警戒しているだけなので、すぐに慣れてしまいます。

最近の流行で、オオカミやライオンなどの猛獣の尿や糞を忌避材としたり、イノシシが青色を認識できるため青色 LED ライトを利用した忌避装置も販売されていますが、これらも効果はありません。

